

## 第9回 北アルプス広域連合一般廃棄物処理施設建設予定地選定会議 議事録

【日 時】 平成24年12月15日（土） 9:30～11:30  
13:15～14:15

### 【参加者】

広域連合長（大町市長）	牛越 徹（議長）
副広域連合長（白馬村長）	太田 紘熙
副広域連合長（小谷村長）	松本 久志

#### （行政関係者）

大町市民生部参事	勝野 稔
白馬村環境課長	丸山 勇太郎
小谷村住民福祉課長	横澤 勲

#### （事務局）

広域連合所長	宮坂 佳宏
--------	-------

### 【議事の概要】

#### 1 開 会

第9回は非公開で開催したため、運営要領第2条に該当する内容を伏せてあります。

#### （事務局）

おはようございます。ただいまから第9回北アルプス広域連合一般廃棄物処理施設建設予定地選定会議を始めたいと思います。

それでは冒頭、選定会議の議長であります北アルプス広域連合長の牛越徹から、ご挨拶申し上げます。

#### 2 あいさつ

#### （議長）

これより第9回北アルプス広域連合一般廃棄物処理施設建設予定地選定会議を開催させていただきます。先日の第8回選定会議までにさまざまな観点から検討いただき、絞り込みを進めていただいておりますが、今日は前回に続いてさらに審議を進め、できれば、正式決定はその後になりますが、内定というところまで審議を進めていただければ有難いと思います。限られた時間はあまり残っていないという気持ちでありますが、十分に審議を尽くしてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 3 協議

##### （1）建設予定地の絞り込みについて

(議長)

では、お手元の次第に沿って進めていきたいと思えます。(1)建設予定地の絞り込みについてということで、前回の選定会議では宿題になっていた点が幾つかあるかと思えますが、資料を用意していただいていますので、事務局から順次説明をお願いします。

(事務局)

それでは、建設候補地に関する確認事項について説明します。これは、地質に関して廣内先生に追加で照会した質問に対する返信です。まず、館之内候補地における調査方法等について、反射法地震探査等については、基盤の深さがわからないけれども、まずは4本、合計140mのボーリングを行う必要があるのではないかという回答でした。その結果、位置が分かればいいのですが、可能性の残る場合は調査を重ねていく必要があるということで、工期については8か月程度、経費について数千万円程度となる可能性もあるとの回答でした。それから八方候補地に関連して、逆断層についてお聞きしたところ、揺れの大きさについては上盤でも下盤でもあまり変わらないということです。また、「西側に傾く逆断層の上側にあたる」ことについて、廣内先生に確認いただいたイメージ図を添付してありますので参考として下さい。

続きまして新行候補地の煙突について、前回のご指摘を踏まえて見直しを行いましたので説明します。参考資料に記載のとおりですが、造成面の標高が875m、新行交差点の標高が889mですので、視点の高さを、人間の身長分を加算して891mとしました。稜線の高さ910mに樹木の頭の高さ10mを加えて遮蔽高を920mとしますと、その差が29m。さらに距離の比率で高低差は拡大しますので、造成地上では925mの高さまでは見えないだろうと考えます。その下の図を見ていただきますと、手前の尾根が煙突の位置がどこになるかによっては誤差もありますが、遮蔽高は50m程度であろうと考えられますので、北アルプスの景観への影響はほとんど無いと考えます。また、前回の説明で申し上げたとおり、排出基準は厳しくなりますが、煙突そのものを低くすることも可能です。

それから、地質について確認した内容です。2ページ目に、新行候補地の近接地の地質概要ということで、昭和56年頃に井戸を掘った際のボーリング調査結果を紹介します。場所は左の地形図にあるとおり新行集落のちょうど真ん中で、井戸の深さは約110mです。右側に柱状図を見ますと、深度70mから下がしっかりした溶結凝灰岩となります。地上から70mまでの間は凝灰角礫岩と言いまして、これは溶結凝灰岩が割れて小さい礫のような形になった石の塊になっています。候補地はこの場所から約900m離れておりますので全く同じではありませんが参考としていただければと思います。次のページのカラーの地質図をご覧ください。ちょうど真ん中の黒い丸印が新行候補地で、白いエリアに入っています。その周りの紫色のエリアは溶結凝灰岩、緑色のエリアについては砂礫と泥ということになりまして、溶結凝灰岩が崩れて堆積しているものです。白い部分は一番時代が新しいエリアですので、最近堆積したということです。このような状況ですので、白いエリアの源汲候補地を掘っていきますと、紫色のエリアと同じ溶結凝灰岩が出てきます。したがって、候補地の堆積物は砂礫凝灰岩の崩れた凝灰角礫岩と考えられます。この場所で造成工事を行うことになった場合は、どの深さで溶結凝灰岩が出てくるのかは、不明です。

引き続きまして、前回ご指摘のありました、学識経験者からの留意点等の「動物(猛禽類以外)への配慮」の新行候補地の欄に「希少生物の生育に注意」という記載があった点についてです。杉本先生とのやり取りを再確認したところ、当日の説明や配布資料には同じ記載等はありませんが、事務局で留意点等を一覧表にまとめた内容について先生に確認をお願いした際に、この欄に追記されたとい

うことでした。その理由について、聞き取りしたところ、他にも水域・流水を含む候補地はあるものの、新行には止水域、つまり水が止まっている場所があるということで、トンボ等の昆虫やサンショウウオやカエル等の希少な動物が生息している可能性が高いということで、あえて追記をしたということです。

(議長)

ただいま説明いただいた内容については、文章に整理して配布をお願いします。

はい、どうぞ。

(事務局)

続いて「源汲C」と書かれた資料をご覧ください。これは源汲候補地について、浸水対策として2面造成を行った場合の土地造成費について試算したものです。平面図のとおり、南側の6,000平方メートルを高盛とし、残り4,000平方メートルを低くした2面造成として試算したところ、土地造成費は1億7,800万円、アクセス道路等に6,100万円という結果になりました。したがって、その下にありますように、土地造成費は3千万の増、アクセス道路等は1,200万円の増ということで、水害対策に伴う増加分は合わせて4,200万円となります。

(議長)

はい、ありがとうございました。続けてお願いします。

(事務局等)

それでは、循環型社会形成推進交付金について説明します。第7回の審議の中で八方候補地内の現有施設の解体費用の財源措置について触れていましたが、その財源として活用可能な交付金です。対象事業は、参考資料の1に記載のとおり、エネルギー回収推進施設、いわゆる焼却施設とリサイクルセンターの新設又は増設、それから計画支援事業ということで、施設整備に関する生活環境影響調査や測量調査などが対象となります。裏面に環境省の作成した交付制度に関するQ&Aの抜粋が載せてありますが、その62番にありますように、A市が所有する廃焼却施設をA市が解体し、その跡地において、別のB事務組合が新たに施設整備を行う場合は、A市の解体事業は交付金の対象とならないということです。

(議長)

その時は対象にならないということですね。

(大町市：勝野参事)

つまり、今、八方候補地にあります白馬山麓清掃センターについて、白馬村や白馬山麓環境施設組合が解体して、広域連合がその跡地に焼却施設やリサイクル施設を造る場合は、その解体費は交付金の対象になりませんが、例えば、広域連合が施設を建設する目的で解体する場合は、対象になるということです。

(議長)

わかりました。

前回、ひとつの案として議論に挙げた例として、現在、白馬山麓環境施設組合が運営している施設を、広域連合が新しい施設をその場所に建設する目的で引き取った場合は、従前の焼却施設の解体については、対象になるということですね。

62番の回答から類推すると、別のB事務組合が新たに施設整備を行う際に、従前A市の所有していた施設を引き取り、B事務組合が解体して、その場所に新しい施設を建設する場合は対象となるという解釈が当然できると思いますので、いずれは有権解釈について確認する必要がありますが、まずは県にそうした解釈が成り立つかどうか相談していただけますか。

(事務局)

はい、わかりました。

(議長)

前回、大町市三日町を候補地として計画した際は、白馬村又は小谷村にもリサイクルセンターを整備することとしていましたが、今後のリサイクルセンターも含めた計画は、新しい焼却施設の立地場所によっても異なりますが、交付金などの財源措置だけでなく、効率的な処理と住民の皆さんの利便性も考慮して決めていく必要がありますね。

(白馬村長)

焼却施設の建設予定地を決める作業と並行して、新しいリサイクルセンターについても検討しなければなりません。ごみ処理広域化基本計画やこれまでの協定を考慮すれば、焼却施設が決まれば、それに付随してリサイクルセンターの場所も絞られると思います。

(小谷村長)

確か、大町市の環境プラントに併設されているリサイクルセンターについては、新しい焼却施設の稼働に合わせて広域連合に移管するという基本計画でしたので、仮に、建設予定地が大町市内に決まった場合は、前回同様に、北側に新しいリサイクルセンターを整備していただきたいと思います。

(議長)

環境プラントリサイクルパークについては広域連合に移管して有効活用するという計画ですが、有償移管という取り決めだったのでしょうか。

(大町市：勝野参事)

はい、有償での移管とされています。

(議長)

わかりました。ではそのように確認させていただきます。

それでは交付金については以上とします。

最初に戻りまして、説明いただいたそれぞれの資料につきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

(白馬村長)

先ほど交付金について説明がありましたが、交付金の対象となる事業費は、これまでの選定会議の中では、経済性の項目として扱われていなかったということでしょうか。確認させてください。

(議長)

そうなりますね。これまでは、施設本体の建設費用や生活環境影響調査の費用については、6か所の候補地のいずれに決まっても同額という前提でいましたので、絞り込みに必要な情報として比較対象とする項目には含めていませんでした。

(事務局)

これまで、総事業費の中の用地費については■■■円として予算等で計上しておりましたが、この部分については、実際に6か所について選定を進める中で、用地費もしくは用地賃借料として今回の試算で差が出ておりますが、その他の本体の建設費用等については、比較検討の対象には含めていません。

(議長)

それでは、資料全体を通して何かありますか。

廣内先生からのご指摘については、いかがでしょうか。

まず、八方地区の揺れの強さに関する評価については、活断層の上盤であろうと、下盤であろうとあま

り変わらないということでした。ただし、「上盤側には撓曲変形帯（とうきょくへんけいたい）があり、地表面が撓むと傾くことやそれに付随する地盤変状が起こり構造物に影響する可能性がある」ということで、できるだけ西側に、活断層から離れた場所に立地すべきというご指摘ですね。これについてはよろしいでしょうか。

それから、館之内候補地の活断層調査について、4本程度のボーリングを行う必要があるということ。掘削に約3週間、報告までに数か月ということで、トータル8か月程度の期間がかかるということです。また、微動アレイ調査については、ボーリングのほうが格段に精度が高いということ、それから、経済性と成果の精度を比較しても、採用する必要は無いというご指摘でした。

昨日までの審議の中で、調査に8か月程度ということから、これらの調整の期間を考えると、館之内候補地は、建設予定地から除外して考えてよろしいでしょうか。

（白馬村長）

はい。

（小谷村長）

このようにしっかりとした説明があればよいのではないのでしょうか。

（議長）

廣内先生からのご指摘についてはよろしいでしょうか。

（小谷村長）

はい。

（議長）

それでは、後ほどまとめて時間を取りたいと思いますが、廣内先生からのご助言に関する2つの資料については一旦閉じさせていただきます。

続いて、源汲候補地の盛土をした場合の経費について説明をいただきたいと思います。

表の断面図の中に大きく斜線の薄い層がありますが、これは掘削と盛立のどちらでしょうか。

（事務局）

左下にマークについて説明してありますが、大変見にくくて申し訳ございません。ご指摘の斜めの線は盛土を表示しています。盛土の中に点線がありますが、この点線が2面造成した場合の低い方の面の高さになります。さらに地山の下に水平に細めの線が入っていますが、この線まで表土を剥ぐということで、掘削を行う部分になります。高盛土の場合は掘削の必要はありませんが、低い盛土の場合は、沈下しないように、一旦表土を剥いで、その上に良質材土を盛って造成するということになりますので、2,500立法メートルの掘削が必要という試算になります。

（議長）

わかりました。浅い表土を剥ぐ部分があって、その上にさらに盛立をするということですね。

盛土の断面に「W=8.5m」と記載がありますが、その右側の8.5mに含まれない部分にも盛土がしてありますが、この部分は何でしょうか。

（事務局）

この部分はアクセス道路になります。ご覧の断面図は、その上の平面図の一点斜線でカットした断面の図となっていますので、平面図の右側の道路に相当します。実際のアクセス道路の位置については、設計段階で確定されていくため、決まっておりませんが、これまでの土地造成費の概算費用と同じ条件で、一般的なモデルとして試算しました。

(議長)

1万平方メートルの全面を造成するということですね。

(事務局)

はい。平面図では、中ほどの2重線で区切られた北側の部分が2面造成の低い方、南側の部分が高い方になります。2重線の部分は2面を分離する斜面で、その両端にある四角い構造物は上面と下面を連絡する2車線の構内道路です。

(議長)

わかりました。南側の高い所に建物を建て、北側の低い所に駐車場などを設けるという想定ですね。

(事務局)

はい、そのとおりです。

(議長)

そうすると、南側の高い所を全て盛り土する想定になっていますが、仮に、下面に繋がる構内道路に近接して建物を配置すれば、南側全てを造成する必要は無いかもしれませんね。

(事務局)

南側の三角に見える部分は面積が十分にありますので、この平面図でも、源汲橋側から西側に入る道路に沿って、林を残して外から建物が見えないようにしてありますが、より多くの林を遮蔽物として残すことは可能だと思います。

(小谷村長)

逆に北側を高くして、南側を低くすることも可能でしょうか。

(事務局)

それも可能ですが、構内道路が短くて済むということで南側を高くしています。

(議長)

2面造成とすることで、これまでの試算とアクセス道路の線形は変わっているのでしょうか。

(事務局)

線形は同じです。

(議長)

源汲候補地に関するこの資料については、よろしいでしょうか。

それでは次に、新行候補地の資料についてはいかがでしょうか。地形図上の仰角の数値はですか。

(事務局)

角度で約2.7度です。

(議長)

遮蔽高というのは、建物が遮蔽されて見えなくなる高さということでしょうか。

(事務局)

はい、そのとおりです。

(小谷村長)

下の図で59メートルと書いてある部分の山の奥の白いのが北アルプスなのでしょうか。それとも更に奥の白くはみ出た部分が北アルプスの山肌なのでしょうか。北アルプスの山並みに煙突がかからないように配慮して欲しいという要望をいただいておりますが、その北アルプスが図の一番奥の山肌だとすれば、煙突が59メートルと書いてある山の稜線を越えて奥の雪山に掛かったとしても、景観に大きな支障はないと考えますが、いかがでしょうか。

(議長)

そのとおりです。59メートルと書いてある山の向こうに左下がりの山の稜線がありますが、その向こうが国道です。したがってその奥の右下がりの稜線は木崎湖の西側にある北アルプス前山ということになります。

(議長)

北アルプスの稜線は、この図をはみ出してさらに上にあるということですね。

それでは、次のページの地質図についてはいかがでしょうか。

破碎された角礫岩ということであれば軟弱でないとは先ほど説明がありましたが、地盤対策をすれば全然問題ないということでしょうか。

(小谷村長)

左側の地質図を見ると、深さ10mまでが「凝灰角礫岩を含む粘土」、その下25mまでは「凝灰角礫岩堆積物を含む粘土」となっています。この深さまでは、あくまでも粘土ですから、おそらく約25mまでは岩盤では無いと思います。その下の「凝灰質砂」の部分、これは36mに地下水位があるので、おそらく岩盤だと思います。したがって、「含む粘土」の部分には支持力がないとも考えられますね。

(事務局)

実際には地質調査を行ってみたいとわかりません。

(議長)

普通は、このような施設を建てる場合、25mも杭を打ち込まないですよ。

(小谷村長)

おそらく、新行候補地はこんなに深くまで岩盤が出てこないことはないと思いますが、この昔ボーリングを行った場所では36メートルまで地下水が無いということですので、深いところもあるということですね。

(白馬村長)

仮に新行候補地がこの場所と同じだとした場合、地耐力の良い部分に打ち込むとすれば、基礎はどのくらいの深さになるのでしょうか。

(小谷村長)

砂礫層などは支持力があっても地下水位は低いですが、普通は岩盤の深さに地下水位がありますので、30m程度と考えられます。ただし、地形図を見ると候補地の方が15mほど低いので、堆積物の厚さにもよりますが、極端な話をすると30mより浅い可能性もあります。稲尾沢に岩盤が出ていたとすれば、川の底と同じ高さで推定することもできるかもしれません。

(事務局)

地質図では、稲尾沢と候補地の周辺は白色のエリアですので、堆積物が堆積して、また侵食されていると考えられます。

(白馬村長)

仮に30m、または20mとしても、その深さまで到達すれば良い地盤ということでしょうか。

(小谷村長)

支持力には不安が残ると思います。堆積した土砂や、岩盤が風化したものがその場所にあるというならそんなに深くはないのですが、全体として堆積した場所なので深くなっているのではないのでしょうか。

(事務局)

普通の住宅であれば全く問題ないと考えますが、ある程度荷重のある構造物ですと、それに応じた基礎

が必要となります。

(議長)

廣内先生からは何かご指摘あったのでしょうか。

(事務局)

水害、活断層、斜面災害などを考慮した場合に、非常に良い地点との評価をいただいています。

(小谷村長)

ある程度掘って岩盤が出れば、先生のご指摘のとおり良い場所だと思います。現地見学で確認したところ地下水位は高いと思いますので、粘土層の上を通っている水でなければ、岩盤も浅い場所に出てくるかもしれません。

この資料はさく井工事のためのボーリングのものなので、N値などは一切見ていないのですね。

(事務局)

そうです。

(議長)

そうすると新行の地耐力についてはなんとも言えないということですね。

他に前回までの宿題の部分について何かありますか。

(小谷村長)

特にありません。

(議長)

それでは、前回までの宿題を整理したことを踏まえて、評価をしていきたいと思いますが、新しい評価軸についてのお知恵はありますか。

(小谷村長)

私が心配しているのは、地元自治会の了承は得られていますが、周辺地域については特に条件を定めていませんので、どの候補地が建設予定地に決まっても、周辺地域に対する説明が必要になってくるということです。もちろん、我々も自治体の境を越えて協力しますが、その自治体で早期建設に向けて最大限の努力をしていただくというのが最後の条件だと思います。

(議長)

今回は、地元自治会及び地権者の了承というのを前提にしています。それ以外の要素については、地元が環境や健康等に悪影響が無いということにご理解いただいているという経過からみれば、その周辺地区から心配の声が挙がるということは考え難いわけですが、仮にそのような状況になれば、必ず説明責任を果たしていく中で、理解を求めて行くということによろしいですね。

(小谷村長、白馬村長)

はい。

(議長)

では、そのように確認させていただきます。

そのために、やはり評価軸をきちっと定めて選定していかなくてははいけませんね。

(白馬村長)

それぞれの候補地で手を挙げてくれた地域の思い入れがあると思います。例えば、八方候補地では、周辺地区から同意書をいただくなど、様々な努力をした結果ですので、多少の賛成反対はあっても協力しながら進めるということで、選定結果については理由を明確に説明していかないとはいけません。



(議長)

そうですね。

新しい評価軸についてですが、1点目として、今までに整理をしてきた7つの視点を見直す中で、第7回の資料2でまとめた学識経験者からの留意点等について、今までは評価軸に用いていなかった自然環境の中の「猛禽類の利用状況」に、500メートル範囲の周辺部ということで、新行候補地については、利用頻度が高い生活環境とあります。また、遡って第3回の議事概要を見ますと、「絶滅危惧種を記載したレッドリストの中でも絶滅の危険性が高いとされているクマタカという種が生息しそうな環境も近くにありました」ということで、杉本先生からは特に猛禽類について配慮が必要だのご助言いただいております。もちろん、配慮ということで、立地できないわけではないのですが、この要素を新しい評価軸のひとつと捉えることが可能かどうかご審議いただければと思います。

もうひとつの評価軸としては、これまで経済性という観点から整理してきた収集運搬経費、または利便性という観点からは運搬距離ということにも関連しますが、住民の皆さんが直接持ち込みする際に、大量にごみが排出される場所に近接して立地することも重要ではないかと思いますが、以上、2点について新しい評価軸としてはどうかという提案ですが、いかがでしょうか。

もちろん、利便性については、リサイクルセンターの設置や分別品目の統一などによって、減量化、効率化に努めることが前提になりますが、自然環境、あるいは利便性に着目することについて、いかがでしょうか。

(白馬村長)

今、利便性という言葉がありました。どこに決まっても、大前提として収集運搬は市村が責任を持つて行うということですので、距離としての利便性や、ごみの排出量が多いこと以外に、大きな柱になるような要素は考えられないでしょうか。

(議長)

第7回の別添1-1の資料の八方、新行、源汲の各候補地の収集運搬費用を比較しますと、新行候補地に比べて、20年間で源汲は■■円、八方は■■円高くなります。また、その裏面には、試算のバックデータとなる各候補地までの距離が載っていますので、距離そのものを新たな評価軸として用いることでも絞り込みできるのではないかと思います。今日までに、三日町候補地以降の資料について眺めてみたりしたのですが、これ以外に、差の出るような新たな視点が思いつかなかったのも事実です。

(小谷村長)

それぞれにメリットがあると思います。新行候補地は、それぞれの市役所、役場、支所から平均的な距離にあります。あくまでも単純平均ですが、新行は15.4km、八方は18.0km、源汲は20.3kmですから、平均距離で一番近い場所を選べば、新行候補地になります。八方候補地は、現在、施設が稼働しているの、施設に対する理解が最も得られていると思いますし、基礎処理等についてもボーリングの柱状図などの資料が残っているので、すぐに設計に活かせる状況です。また、水道水が不要とまではいいませんが、現在、地下水で賄えているという状況です。源汲候補地には地下水も豊富にあると思いますし、近くに水道管もあります。それから、直接持ち込みの利便性を考えると、途中で坂道も無いし雪も少ないので良い場所だと思います。ただ、地域振興策の中にグラウンドを借りて欲しいという要望があったと思いますが、大きなグラウンドですので、20年間では大きな金額になるのではないかという心配があります。事務局でわかりますか。

(事務局)

推薦書の中では、「源汲運動公園は大町市が借地し維持管理されたい」という要望いただいております。

自治会長とのやり取りの中では、金額について特段の考えはないということでした。

(議長)

維持管理については、現在、自治会で草刈りなどの整備を行っているので、大町市が管理する主体となれば、一緒に考えていただきたいというご要望でしたね。

(事務局)

グラウンドの広さは航空写真からおおよそ1万5千平方メートルと計算しています。

(大町市：勝野参事)

グラウンドと神社の土地が共有地で、広域連合の施設が建設されるのは神社の土地になると思います。この部分については、宅地並みの賃借料で賃貸借して欲しいという要望です。

(事務局)

源汲橋を渡ってからグラウンドに向って入って行く右手側、鹿島川側が、神社の土地になっていて、そこからグラウンドの北側まで回りこむように広がっています。グラウンドはそのまま残して活用して欲しいということですので、これまでの試算でお示したように、施設はグラウンドの南側のどこかに建設することになります。

(議長)

概算費用を試算した際に敷地部分として想定した場所は、全て神社の土地になるのでしょうか。

(大町市：勝野参事)

ほとんどが神社の共有地で、一部が私有地です。

(議長)

では、建設候補地のほとんどが共有地で、賃貸の希望があるということですね。

(大町市：勝野参事)

はい。

(白馬村長)

確認ですが、グラウンドの部分は市の負担、施設の敷地については広域連合の負担ということですね。

(議長)

はい、そうなります。

(小谷村長)

先ほど猛禽類の話がありましたが、猛禽類については営巣が無ければ特に問題はないと思いますし、最近クマタカやオオタカについても、500m以内に営巣地が無ければ工事はできますし、今までもクマタカの対応も行ったこともありますし、白馬村では、繁殖期を避けて工事を行った事例もあります。オオタカについても同様に、繁殖期を避けて工事をする事で対応できると思いますし、今は高速道路などでもそのような手法を採っているはずですので、問題ないと思います。

(議長)

たしかに、第3回の選定会議でも、杉本先生が、営巣の有無や繁殖期が重要であり、猛禽類の利用域であるからといって施設の稼動に問題があるわけではないとおっしゃっていますね。そうすると、6か所全てで営巣が確認されていないので、猛禽類のみを新たな評価軸とするには無理がありますね。

(小谷村長)

そうですね。

(議長)

わかりました。もうひとつの要素として、概算費用の試算では3割の皆さんが、直接持ち込みを行うと

いう前提でしたが、平坦な場所に運んでいくことが住民感情としては大きな要素になるかと思います。これまで議論してこなかった感覚的な要素ではありますが、新たな視点として捉えるべきなのでしょうか。

(白馬村)

源汲候補地周辺の積雪はどんな状況でしょうか。

(議長)

大町市街に比べると積雪は多いですが、平坦な道路を通行できますので、不安は少ないと思います。

(白馬村長)

北から向かう場合は木崎湖の横を通ると考えてよいでしょうか。

(議長)

そうなります。

通常の運搬ルートは国道148号の木崎湖トンネルを越えて行くことになると思います。

(白馬村長)

大町市内の候補地が2か所残っていますが、大町市民の皆さんの感覚としてはどうなのでしょう。

(議長)

大町市民にとっては、6か所の候補地からどこかを選ぶというよりも、現在利用している環境プラントとの比較、これまでと比べて便利な場所かどうかという感覚なのだと思います。その点では源汲候補地の方が平坦地でアクセスが容易だと感じられるのではないかと思います。

市内の中心部を市役所とした場合、距離的にも新行に比べ、源汲候補地の方が、2.3km近いというもあります。

(小谷村長)

小谷村としては近い方がありがたいので、三日町候補地と同じ3.6km以内だと繰り返し発言してきました。しかし、広域化するわけですから、どの候補地に決まっても、基本的にはどの市村も現有施設よりも遠くなる可能性が高いわけですから、ある程度は仕方ないと思っています。

重要なのは、早期の建設だと思います。状況は大町市も同じだと思いますが、白馬山麓清掃センターも老朽化しておりますので、決定後にスムーズに進めることが大切だと考えます。

(議長)

速水先生も周辺住民の理解が大切だとおっしゃっていました。建設予定地決定後には、選定の経過も含めて説明に努め、地元の皆様と協議しながらスムーズに進めていくことが重要と考えます。やはり、候補地として決定した後、様々な調整に時間を要することは避けなければならないですね。

(白馬村長)

八方候補地については、これまでの経過から、同じ場所で建て替えをすることについても近隣区の同意書をいただいていますので、逆に新しい施設が白馬村外に立地するとなれば、各地区の感情論というものも付いてきますので、選定の経過について説得力のある説明も必要となってくると考えます。

(議長)

今回は、それぞれ地元の理解、地権者の同意をいただいていますので、6か所全てが適地であり、相対的により良い場所を選定するわけですので、結果的に5か所の候補地は選ばれないとしても、ある候補地がダメだったということではなくて、より優れている場所を選択したと説明し、ご理解いただくしかないと考えます。

その中で、これは広域連合が負担するものではありませんが、収集運搬費用あるいは運搬距離について3か所で比較すれば、相対的に大町市内の候補地が浮かび上がるということではいかがでしょうか。

(白馬村長)

たしかに、ごみの排出量の多い場所に近接して立地することも大切な視点ですが、最終的に、「なぜ八方候補地がダメだったのか」という意見は想定されますので、少なくとも、判断材料に対する評価をきちんと説明しなくてはならないと思います。もちろん、仮に白馬村内に決まった場合は、大町市の皆さんにも同じことが言えます。

(議長)

そうですね。

とはいえ、総合的な判断を試みながらも、決め手に欠くのが現状ですので、新たな評価軸について知恵を絞ろうとしているわけです。

(白馬村長)

3人の総意で決定したとしても、選ばれなかった候補地の皆さんにとっては、なぜなんだという感情が入ってくると思いますので、非常に難しい面もありますね。

(議長)

現在検討している3か所がいずれも適地であり、優劣付けがたいために、何とか相対的な優位性を見出す努力が必要です。そこで、残った要素として考えられるのは経済性としての収集運搬経費、あるいは運搬距離といった要素になりますが、そのへんはいかがでしょうか。

(小谷村長)

経済性として、初期経費は検討材料になりますが、運営経費については1トン当りの処分費というのは広域連合で対応するので検討材料になりますが、収集運搬経費については、それぞれの市村で対応するわけですので金額の多寡で比較するべきではないと思います。全体としての利便性と考えればよいと思います。

(議長)

経済的な要素というよりは、利便性という捉え方が好ましいということでしょうか。

(小谷村長)

そうです。

(議長)

もちろん広域連合の負担ではありませんが、3市村、あるいは住民が直接負担しなければいけない経費についても、誰が負担するかは抜きにして、トータルな経費として配慮する必要があるのではないのでしょうか。決定的な判断要素にはなりえないかもしれませんが、利便性や運搬における省エネルギーという観点から運搬距離というのは、ひとつの評価軸かもしれませんね。

さて、予定されていた時間が迫ってまいりましたが、無理やり時間内に結論を出すという性格のものではありませんので、もし可能であれば、一旦お昼を挟んでいただいて、引き続き午後、審議を続けさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

(白馬村長)

あとは我々3人の考え方をどのように集約するのかだと思います。

(議長)

以前、三日町まで運搬することについては合意をしたとお話ですが、源汲候補地は、三日町の候補地よりは両村からの距離が1.7km長いのですが、これは許容の範囲と考えてよいのでしょうか。

(小谷村長)

大町市にとっても以前、白馬村飯森地籍の候補地を了承した経過があるわけですから、雪などの問題も

ありますが、クリアできないわけではないと思います。いずれにしても我々3人の合意で決定するわけですので、数km程度の違いであれば、村民にご理解いただくことも可能だと思います。

(白馬村長)

第1回目の飯森地籍が候補地となった時は、大町市の皆さんもそこまでは運んでもいいと判断されたということです。次の三日町の時は、逆に白馬、小谷の村民はそこまで持つていくことを了承したわけです。そういう経過があるので、私とすれば横並びではないかと考えます。住民に納得いただき易い要素で評価ができれば良いと思いますが。

(議長)

まさに、相対的により良い場所に決めるために何を新しい評価軸として判断するかということですね。今日挙げた他に何か新しい要素があればご意見をいただきたいのですが。

(小谷村長)

単純に初期経費で比較すれば、八方、新行、源汲の順になりますし、運営経費を加味すれば、新行、源汲、八方、平均的な運搬距離で考えると、新行、八方、源汲の順になりますが、いずれも大きな差はありませんので、やはり数値に表れない要素や住民の心理的な要素をいかに加味して判断するかが大切だと思います。

それから事務局に確認ですが、年間の賃貸料については、実際の地目は山林であっても、全て宅地として試算しているのでしょうか。

(事務局)

はい。造成を行いますので、宅地としての評価額で試算しています。実際には境界を確定し、その後に不動産鑑定士に鑑定をしていただき、買い取り額や賃貸料を決めるといった手順を踏まないといけないと思います。

(議長)

なかなか煮詰まってしまうましたが、どうでしょうか、一旦、休憩を挟むということによろしいでしょうか。

(小谷村長)

はい。

(議長)

では、午後1時15分から再開としたいと思います。

## [昼食休憩]

(議長)

それでは、再開し、引き続き選定の作業を進めてまいりたいと思います。

何か新しい評価軸について、ご発言ありますでしょうか。

(小谷村長)

私は特に新しい評価軸というのは思いつきませんが、これまでの情報の整理を行ってきた事務局から、心配な点などありましたらこの場でご発言いただきたいと思います。

(議長)

それでは、事務局より何か提案などありましたら、率直にご発言をお願いします。

(事務局)

特に決め手に欠くという状況です。ホームページなどで他の自治体の選定協議などを見たりしても、これまでに整理してきたような内容で決められているという状況でした。

(事務局)

これまでの議論の中で挙げた項目の中から、新たな評価軸を見出す他に、正直、新たな評価軸というのは思い浮かびませんでした。

(議長)

後ろの席の皆さんからも順にご発言いただけますか。

(事務局)

6か所から3か所に絞り込んだ後の議論を伺ってまいりましたが、決め手に欠けるというのが正直な印象です。

(事務局)

私は学識経験者のお見送りなどを担当させていただいたのですが、皆様、会議でご発言された内容が、どのように選定に結びついていくのかについて気にしていました。甲乙付けがたい中で1か所に絞り込むのは難しいですが、やはり、学識経験者の方からのご助言を基本にお考えいただければと思います。

(事務局)

普段、土木工事の設計などを担当しておりますことから、今回、土地造成費の試算などで参加させていただきました。あまり大きな要素にはならないと思いますが、あえて挙げるとすれば、主な運搬経路について考慮しますと、八方と源汲の候補地についてはスキージーンなどに交通渋滞の可能性があると思います。その一方、新行については、幹線道路の主要部分が坂道であるという特徴があるかと思います。

(議長)

アクセス道路について、構造そのものだけでなく、交通渋滞の要素もあるのではないかというご意見をいただきました。

事務局の皆さんからもご発言をいただきましたが、いかがでしょうか。

(小谷村長)

あえて挙げるとすれば、新行候補地については、地盤支持力があるかないかということが大きく建設費に影響します。もちろん岩盤がすぐ下であれば簡単に直接支持できるかもしれませんが、ちょっと心配です。

それから、生活環境影響調査というのは、八方候補地など、既に施設が存在する場所で建替える場合であっても必要なのでしょうか。

(事務局)

はい、必要です。

(小谷村長)

調査の内容について、追加項目などはありますか。

(事務局)

調査項目については、同じ条件と考えます。

川上候補地と中綱候補地については、大気質の項目において、狭隘地形ということから風洞実験など、より詳細な調査内容とすべきとのご指摘をいただいていたのですが、今残っている3か所については、そのような差の付く前提条件はありませんので、見込んだ範囲内の項目で対応できると考えています。

(議長)

実際には、立地特性に応じて、周辺住民の意見も聞きながら、場合によっては項目の追加や調査内容の簡略化なども行って実施することになります。3か所とも概ね見込まれた範囲内で対応できるということですね。

(事務局)

はい。

(小谷村長)

調査の結果によって手戻りの起こる可能性はどのなのでしょう。

(事務局)

国の調査指針で示されている、大気質、騒音、振動などの項目については、施設の内容や規模、周辺状況から、適切な設備を備えることで、3か所のいずれにおいても、技術的にクリアできないということはないと考えます。

また、指針では行う必要はないものの、前回の三日町の時には項目の追加を検討していた動植物についても、今回、土田先生と杉本先生、お2人の学識経験者に現地を確認いただいていますし、仮に希少種や希少種ではなくても配慮すべき動植物が見つかった場合についても、移植などにより対応が可能とのご助言をいただいていますので、正直申し上げて、手戻りの可能性で差が付くことはないと思います。

(白馬村長)

建設予定地決定後に、住民、特に推薦いただいている地元の皆さまに対してご理解いただくには、適地という意味では僅差であったにしても、納得いただけるような評価軸が求められるのではないかと思います。

(議長)

午前中に、住民の心理的な要素をいかに加味するかといった議論がありましたが、利便性という観点からは、市民感覚から、直接持ち込みの際の通行に不安が少ない場所がより望ましいという判断もできると思いますが、その点について何かご意見がありましたら、お願いします。

(小谷村長)

収集運搬経費について、1トン当たりの処理費を計算すると、八方候補地は、大町市が約■■円、白馬村が約■■円で9,000円の差、新行候補地なら、小谷村が約■■円、大町市が約■■円で6,000円の差、源汲候補地なら、小谷村が約■■円で、大町市が約■■円で7,000円の差になります。この中で、最も差の少ない新行と、源汲については大差が無いように見えますが、大町市にとっては、新行は源汲に比べて900円しか差が出ませんが、小谷村は新行に比べて源汲はトン当たりの単価で2,000円以上の差が出ます。小谷村は遠方に位置するため、高額となるのは理解できますが、トン当たりの単価で比べたときに3市村間で大きな差が出ないようにお願いしたいと思います。

(議長)

わかりました。

収集運搬に掛かるトン当たりの単価を3市村で平準化する配慮をという要望ですね。

(白馬村長)

小谷村長が言われたような点もひとつの要素と考えます。白馬村のことを考えますと、現状の直接持ち込み率が65%ほどありますので、新しい施設が大町市内で稼動することになれば、距離が遠くなることから、直接持ち込みから行政収集への移行分もあり、更に収集運搬経費が増加することになります。

(議長)

行政負担は増えますが、例えば、個々に10kgずつ軽トラックで運んでいたものを、一括してパッカー車で運ぶことになれば、地域全体のトータルコストとすれば減少するのではないのでしょうか。

(白馬村長)

もちろん、そのとおりです。

当然、このような機会に、集積所の整備など、できるだけ行政収集への移行を図る必要はありますが、これまで直接搬入されていた方にとっての利便性も無視できない要素かと思います。

(議長)

いずれの場所に決まっても、より一層の減量と分別の徹底を目指すことは大切ですね。また、集積所の整備や、収集運搬ルートについては、可燃ごみの焼却施設だけではなく、資源物や不燃ごみを受け入れるリサイクルセンターも含めて検討していく課題だと思います。

それぞれご出席の課長さん方からも、この際、何かありましたら率直にご発言ください。

(大町市：勝野参事)

甲乙付けがたい状況での絞り込みは困難だと思いますが、いずれにしても首長さんの決断で3か所の中から、決めていただく他ないと思います。

(白馬村：丸山課長)

八方と源汲の差はほとんど無いと思います。新行候補地については、土質、水の確保が本当に大丈夫かといった点で若干の心配が残るのではないかと考えます。しかし、いずれも立地適性を欠くといったものではないと思います。八方候補地については、丁寧に地元区との協議を積み上げてきたことから、仮に八方候補地に決まらなかった場合は、地元にご理解いただけるような理由を説明する責任があると思います。

(小谷村：横澤課長)

個人的には、防災上のリスクが少ないことの優先度が高いと思いますので、廣内先生からご助言いただいた項目を重視してはどうかと思います。また、経済性については、防災上のリスクをクリアするための経費、電気料金、水道料を含めた場合はどうなのかといったより詳細な検討も必要かもしれませんが、地下水の心配が無い場所が有利だと思います。

(議長)

これまで、電気料金については基本的に、どの場所に建設しても差がないという前提で進めてきましたのですが。

(小谷村：横澤課長)

その前提で比較してきましたが、例えば、地下水を利用すればポンプに必要とされる電気分の負担が増えると考えます。

(議長)

ただし、その場合は、その分の水道料金が低減されることになりますので、そんなに大きな差にはならないと思いますが、いかがでしょうか。

(小谷村：横澤課長)

そうですね。

(議長)

予定した時間はあと1時間ほどありますが、いかがいたしましょうか。

議論が膠着状態のまま結論を出すよりは、日程調整いただいて再度お集まりいただける機会があるとなれば、今日の会議は閉めて、次回に結論を出すという方法もありますが、いかがでしょうか。



(白馬村長)

新たな評価軸を模索する努力は続けるとしても、決定的な要素が考えられないようであれば、これまで整理した情報や、今日までの審議内容をもとに、各項目についてメリットとデメリットを一覧として並べてみて、総合的に選ぶというのもひとつの方法かと思います。

(小谷村長)

事務局は大変だと思いますが、例えば、初期経費が一番安いといったような1つの評価軸で他の候補地との優劣を判断するのではなく、複数の要素から浮かびあがった候補地を選ぶという方法を試みるべきかと思います。

(議長)

それでは、3市村にも協力いただき、事務局で一覧表の整理を可能な範囲で行っていただけますか。

それをたたき台に我々3人が、表現を含めて内容を確認することで、最適地が浮かびあがってくるかと思えます。

(事務局)

議論されているもの以上に、説得力のある新たな評価軸というのはなかなか思いつきませんが、これまでの項目について、例えば、経済性でいえば、初期経費、運営経費に地域振興策も含めて試算結果を単純に足し算した数字を比較するという方法もあります。

(白馬村：丸山課長)

単純に足し算をしても、数千万円の差ですので、総額に対する比率を考慮すれば、誤差の範囲内だと思いますので、それをもって最適地とできるのかは疑問です。

(議長)

前回確認したとおり、立地適性などによって優劣付けがたい場合には、地域振興策を加味して判断するとしています。たしかに優劣付けがたい状況ではありますが、実は3か所の地域振興策そのものも、ひとつの物差しではありますが、大きな差がないのが現状ですね。

やはり、これまでの要素を1枚に盛り込んだ表を鳥瞰的に眺めて結論を浮かび上がらせる手法をとるべきでしょうか。

(事務局)

先ほど横澤課長が発言された防災上のリスク回避という視点で見ますと、活断層の項目で「変位の影響を受けない」と廣内先生にご指摘いただいた候補地はリスクが少ないといえますか、メリットがあるといえますが、いずれの表現にしても、そういう評価に差のある要素を積み上げる整理の方法があるのかと思えます。

(白馬村長)

主観を入れずに、そのような客観的な要素を積み上げるしかないと思います。

(議長)

では、これまでの7つの視点に基づいて整理いただいた項目について、差のあるものを全て拾い上げる作業をお願いできますか。

そうしたことで今回、第9回を閉じるとしますと、次回は、第10回ということになります。非常にタイトな日程となってしまいますが、調整は可能でしょうか。

**[次回の日程について調整]**

(議長)

それでは、次回、第10回の選定会議を19日に開催させていただきます。

事務局にはお骨折りいただきますが、よろしくをお願いします。

(小谷村長)

村の立場に立てば、より近い候補地がいいですが、選定会議として、これまでの情報から判断する責任もあります。それぞれの候補地について微妙な感情の問題もありますので、建設予定地に選ばれなかった残りの2か所については、選定されなかった理由についてご理解いただかなくてはいけないのですが、我々3人が覚悟を決めて、こういう理由だから別の場所になったんだと説明するしかないと考えます。

(白馬村長)

総合的な判断で決めるしかないという点では3人とも一致していますね。

(議長)

最後に加味すべき要素としては、住民にとっての利便性があると思います。これまでの7つの視点に含めていませんし、客観的に数値化できる要素ではないかもしれませんが、最後まで私自身も迷っている部分がありますが、交通に対する不安など、施設を利用される住民の立場に立った評価を一覧に盛り込むことも検討すべきではないかと思います。

(白馬村長)

これまでの議論で挙がってきた要素ですので、どのように判断するのは次回協議するとして、一覧表には盛り込むべきではないでしょうか。

(議長)

では、そのように準備をお願いします。

大変忙しい作業にはなりますが、本日までの経過についても整理いただくことはできますか。

(事務局)

議事概要の整理となりますと、内容の確定に慎重な確認が必要となりますので、19日までの作業時間を考えますと、本日参考資料としてお配りさせていただいている発言メモのようなかたちで準備させていただければと思います。

(議長)

わかりました。それで構いませんので準備をお願い致します。

では、19日までに出来るだけ資料を読み込んでいただいた上で、次回は総合的な判断で建設予定地について意見集約したいと思います。開始時間はもう少し早くできませんか。

#### [次回の開始時間について調整]

(議長)

では、19日、午後4時半からの開催でよろしくお願い致します。

本日と同じく非公開で開催ということでもよろしいでしょうか。

(白馬村長、小谷村長)

はい。

(議長)

では、そのように事務局で対応をお願いします。

ありがとうございました。

[終了]